

第13回高山駅周辺地区まちづくり協議会議事要旨

日 時 平成25年2月20日(水) 13:30～15:30
場 所 高山市役所 201・202 会議室
出席委員 15名

《会長あいさつ》

《議 事》

高山市総合交流センター基本構想(案)について

【事務局】 — 第12回高山駅周辺地区まちづくり協議会での意見に対する対応方法
について説明 —

前回いただいた意見については、基本計画等を策定する中で検討していく案件と考えており、事務局としては、基本構想(案)の(案)を取り「高山市総合交流センター基本構想」として定める方向で進めたいと考えている。

【会 長】 建物あるいは施設を造る時には、段階的に話しが進んでいく。基本構想という形で大きな方針を決め、その方針の中で基本計画を決め、基本設計、詳細設計という事で段々具体化していく事になる。前回の委員会でいただいた意見は基本構想の段階ではそれらを否定するものではなく、詳細については、皆様の意見を伺いながら決めていくとの説明であった。

ご意見を賜りたい。

— 意見なし —

それでは、事務局より報告された「総合交流センター基本構想(案)」について、まちづくり協議会の意見としては、原案から(案)を取り、「総合交流センター基本構想」として定める事に対し、異議はない事とさせていただく。

東西駅前広場について

— 駅前広場について設計事務所より説明 —

【設計者】 これまで全国の様々な街づくりに関わってきたが、その場所の地域性を活かした造り方をしたいという事が今まで手掛けてきた事業に対するスタンスである。大事なのは、何を造るのかという事よりも、そこがどう使われていくのかという事であると思っている。

今回、広場で市民の為の広場を囲むような回廊を造ってはどうかという事が提案の背骨の部分である。提案するにあたり、囲む事の意味として、「空間性の話」、「機能性の話」、「象徴性の話」の3つについて考えてみた。

空間性については、JRから多くの観光客が駅前広場に流れ出て行くという事で、その人達をいったん広場で出迎える、受けるような場所ができれば良いと思った。回廊を造る事によって一つの駅前としての領域を作るという事である。

機能性については、通行帯の枝となるキャノピーが必要になってくる。回廊で囲む事によって、メインの動線になり、それぞれの枝葉の部分に伝わって行けると考える。

象徴性については、古い街並みの屋根など、具象的な高山らしさという物を直接的に表現するのではなく、高山の精神性の様な物が表現できれば良いと思っている。

観光都市という事で、おもてなしをする、迎える空間としての囲われた場所ができないか。これが回廊で囲う事の提案に至った思考である。

一方、西口は今後広場に面する隣接地がどういった性格付けの物になるかによって考え方が進展していくと考えている。

東口に関しては4つの要素が出てくる。「回廊に囲まれたメインの広場スペース」、「観光案内所」、「駐輪場」、「余白の部分として形は色々あるかとは思いますがサブの広場空間」が生まれてくと思う。

観光案内所については、どの場所に配置するかによって組み合わせが変わってくるという考えに至っている。広場に案内所だけを入れてしまうと広場の使われ方が既定されてしまうといった考え。また、回廊を造る事を前提に立つと、回廊に取りついて案内所があるという事も考えられる。一見さんのお客様の視認性としては広場の中に配置した方が良いと考える。両方の可能性があるという事で、ご意見を伺いたいと思っている。

駐輪場については、平面配列で必要な面積で考えるようにしている。

何を造るのかという事よりも駅前広場をどのように使っていくのかという事についてご意見を伺い一緒に考えていきたいところである。

高山に降り立った人がまず期待しているのが、伝統的な空間に迎えられているような感じ、期待感があると思う。一般の駅は車回しで終わるといふ所であるが、高山駅は駅前広場としての空間が広く、駅舎の前には人間の為の空間がとれた。回廊が無い場合は、広い交通広場の中にかろうじて確保した人間の為の小さな広場という感じになるが、しっかりとした回廊を入れる事により、駅前広場に出迎える顔が作れるのではないかと考える。

駅前広場とは一種の助走空間であり、駅を降りた瞬間にある種の期待を抱かせる、お客様をもてなすのに失礼のない空間にしたいと思っている。それには、広場の中のデザインをどうするのか、どういった素材で造るのが重要になってくると思う。今回は3案考えてみた。

一つは色々なイベントにも使え賑わいの拠点となってほしいという事で、広々としたオープンスペースにしてはどうかと考えている。どのような素材で舗装するのかと考えた時に、土間の様な雰囲気、焼物、煉瓦に近い焼物で敷き詰めてはどうかと思っている。回廊があれば、基本的には無散水消雪が事実上必要なくなる為、舗装素材にバリエーションが出てきた。

仮にその様な雰囲気にしたとしても、水を使った演出をしたいと考えている。高山は真中でバシャバシャ水を上げる感覚がなく、静かな水盤があって真中から力強く水が湧いているような感じが面白いと思う。

2つ目は緑も考えられると思う。しかし緑はある程度の面積がないと映えないという事で、回廊で囲った中に緑を入れてもこじんまりし過ぎてしまうと思う。また緊急車両が最低限通るルートを作ろうと思うと、全面芝生では具合が悪くなる。

3つ目は、水盤を広く取るという事である。水深が2センチ弱の歩ける水盤が出来る。夜になると建物の灯りや、周りの街の灯り、空の色を反射するので、象徴性の高い空間が作れるかと思う。水で風景を写し取ってお迎えをし、街を見ていただくという様な作りもあるかと思う。水を落とせば普通の広場になる。

ファニチャーとは照明やベンチ、サイン、車止めや柵などがある。デザインする上で、大事にしていくべき事を3つ上げてみる。

一つ目は「使いやすいデザインにする」という事である。高山ならではの使いやすさや、冬と夏の関係性を認めた使いやすさ、あるいは雰囲気が良いなど、単に機能だけでなく、それらを含めた使いやすさが大事になる。

2つ目は「息が長く質の高いデザイン」という事で、5年や10年で古くなった、飽きたと感じる事のないデザインを出すという事である。その為には、材料は良い材料を使い、技術も今考えられる最高の技術を使うべきと考える。

3つ目は「高山らしいオリジナリティーあるデザイン」という事で、最終的には一番大事になると思う。ファニチャーで簡単に出来る物ではないと思うので、複合的に広場や建築等と重なって、皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思っている。

照明は夜に雰囲気が良いと感じるのが一般的であるが、昼間にどのように見るのが大事であり、昼と夜を含めて提案していきたいと思う。光源については、LEDを使いながらも照明としての情緒的な灯りや雰囲気をいかに出来るのかという事も考えていきたい。また、ベンチ等で木材を使うようになると思うが、高山の木とは、「樺」なのか「檜」なのか「杉」なのか等、皆さんの思いをお聞きしてデザインに繋げていきたいと思う。

【会 長】 まず、基本コンセプトとなる回廊を設置するという事についてご意見を伺いたい。

【委 員】 回廊はすごく良いと思う。バスやタクシーを利用した時に回廊がない為に雨に濡れてしまう。回廊を通りバスやタクシーの線に繋がるという事であれば、お迎えの立場としても良い考えであると思う。

【設計者】 緊急車両を入れる為には回廊を一部切る必要がある。緊急車両だけでなく中でイベントを行う場合に、機材を搬入する事も考えられる。
また、車が通る高さとは4.5mと基準法で決まっている。一部4.5mの高さにすれば通る事は可能である。

【委 員】 バリアフリーやユニバーサルデザインの観点からすれば、回廊は重要な意味を占めると思う。一つの回廊を伝わってタクシー乗り場やバス乗り場に行けるというメリットは十分にあると思う。気になったのが、観光案内所とバスの位置である。バスが広場に向けてお尻を向けるという所では、工夫がほしいと思う。

【設計者】 排気ガスをガードする様な腰壁的な物は必要かと思っている。目隠しする素材を吟味して、隠す為の物に留まるのではなく、そこで地域性を表現できる物を積極的に使っていきたいと思っている。

【委 員】 観光案内所を自由通路出入り口の 에스カレーター の横に置いた場合は、皆さんから位置が分かるのか。

【設計者】 一見さんの方は分かり辛いと思う。その場合はサインで、誘導する事が必要と思う。

【委員】 高山は多くの外国人観光客がおみえになるので、案内所は駅を降りてすぐに分かる場所の方が良いと思う。回廊という発想は良いと思うが、下から見ると、回廊がすごく大きなイメージに繋り、回廊の設計が重要になると思う。ただの棒を建てて屋根があれば良いという物ではなく、柱にしてもイメージが大事になると思う。

【委員】 観光案内所については前側にしていただけると良いと感じている。今はキャスター付きの荷物を持ったお客様が多いので、ガタガタしない工夫が必要なのではないかと思う。回廊についてはありがたいと思うが、東側から駅舎を見た時に、回廊があると駅舎の正面デザインが崩れてしまうのではないかと思う。

【会長】 広場の中の設計、主に舗装をどうするのかといった事についてご意見を伺いたい。

【委員】 子どもは秋でも水があると入ってしまう。遊ぶ側にしては良いが、親としては水に入られると困るため、水盤では無く、湧く形の方がありがたい。

【設計者】 水で子どもが遊んだ風景も高山の風景と言うのか、東口は特に観光客も来るので、静かな方が良いと言うのか、それらの意見を伺いたいと思う。

【委員】 夏は良いが、冬は常に下から水が湧いて、常に雪が消えるくらいでなければ凍ってしまうと思う。夏は涼しい感じにもなり、冬は雪を消すという意味でも水を出すようにしてはどうか。

【設計者】 水の機能として夏場のクーリングという事では馬鹿にならない。駅東の回廊については、30m×34mの良い空間になる。ここでたたずんだ時に風が吹いてヒンヤリ感じられるという機能は付加できると思う。

【委員】 夏に高山へ来る人は、涼しいだろうと思って来ている。涼しさを感じてもらえる事も、おもてなしになるのではないかと思う。

【委員】 特に冬が課題になると思う。雪をエリアから除雪して搬出したりするといった管理面での問題が大きいと思う。

【設計者】 雪捨場は必要と思う。井戸水は10℃程度水温があるので、雪を溶かすという意味でも使えると思う。

【委員】 回廊の屋根の上にも雪が積もる。屋根の素材や屋根に電熱を入れる様な事も考えなければならないと思う。

【設計者】 屋根の雪をどうするのかという話は、最上位の大事な課題になると思う。

【会長】 照明やサイン・ベンチなどのファニチャーについてご意見を伺いたい。

【委員】 冬と夏の関係ですが、温かみを感じる光の色はどのような色があるのか。

【設計者】 一般的に電球色の様な物は、冬は暖かく、夏は暑苦しく感じると思う。切り替えなどの手間は掛かるが、夏は白っぽい光にして、冬はオレンジっぽい光にした事もある。今はLEDが主流になってきているので、比較的切り替えがやり易くなってきた。

【委員】 観光の事を考えると、風情を考えて温かい色で行う事も良いと思うが、駅前で子供達の溜まり場になり悪い事をさせない為には、ある程度の明るさも必要である。大人の目が届く所が必要と思う。観光の事を重視して、温かい色や風情のある色ばかりを考えると、駅前が暗くなり、中高生の事を考えると心配になる。

【設計者】 安全という事は考えていかなければならないが、風情という事も大事であると思う。

【委員】 照明をLEDにすると犯罪が減るという話を聞いた事がある。また、駅舎の形であるが、昔の駅舎は「山」という字をイメージしてあり、雰囲気の良い駅であった。参考にしてほしい。

【委員】 余分な物を削り取って最後に必要な物だけが残るという事が日本の文化であると思う。高山でもそういった傾向にあるが、できるだけ簡素なサインがあれば良いと思う。

広場について、高山の伝統文化として「春慶」も一つ考えられる。春慶は素敵な光沢を放つ。その様な物がここに表現できないかと思う。

【副会長】 観光案内所の位置は前側の方が良いと思うが、回廊の前に案内所がある形でなく、観光案内所の前に回廊があるといった形にした方が入口が一ヶ所になり、観光協会の方も業務し易いと思う。

回廊は良いと思う。キャスター付きの荷物を引いた時にガタガタしないような工夫が必要といった意見があったが、点字ブロックと健常者の人が歩かれる場所の幅が必要と思う。

駅前の道路を挟んだ向かい側が気になる。回廊と同じイメージの物が周辺にあると、駅に近付いてきたといった感じになり、駅との一体感を持っていただけだと思う。

緊急車両等の進入路について、4.5mの高さがあれば車が入れるという事であれば、回廊の一部を高くして全面道路から緊急車両が入れるようにしてはどうか。一部を高くする事により、駅舎を降りた時、古い町並み側に開放感を持つような回廊にすることも考えられると思う。

【委員】 広場について、形をどうするのかという事を含めて、管理運営をどうするのか、維持費がどの程度必要になるのか、使い方をどうするのかといった事など、他市の良い事例を紹介いただくなど、ソフトの面も含めてご提案いただければと思う。

自由通路から街の方を見た時にどのように見えるのか気になっている。その様な絵を整理された方が良いのではないか。

回廊という大きい物が出来ると、それが高山市のイメージになってしまう。回廊と高山市らしさ、伝統という事をどのように結び付けるのかといった事を整理されてはどうかと思う。

【設計者】 素材に関して、コンクリート製品は出来た時は綺麗だが、紫外線で色が抜け、風雨にさらされてボロボロになってくる。石畳で澄まして作るというよりは、土間のような風情を持って広がるような感じが高山らしいのかなと思っており、それに近いイメージの焼物で考えている。焼物は時間が経っても色あせる事がなく、素材に焼きむらを与える事によりパターンを入れなくても良い風合いになる。大量に同一素材を使うので単価的にも落ち、取り換えも楽になるといったメリットもある。初期投資は若干掛かるが、長い目で見るとコスト的には掛からないと思う。赤は見た目の飽きが来ないといった耐久性も高いのでそれらも重要かと思う。

広場で木材が出てくると思うが、広葉樹なのか針葉樹なのかについて皆様の意識をお聞きしたい。また金属系についてもお聞きしたい。

【副会長】 飛驒家具に使われている「ナラ」、「ブナ」が考えられる。飛驒家具の特徴である曲げ木を、ストリートファニチャーの中に取り入れられると良いと思う。春慶塗りもある。

工法で言うと、軸組み工法や飛驒格子や千鳥格子などの格子が取り入れられると地元の建築組合が、曲げ木に関しては木工連合会が手伝えると思うので、針葉樹よりも広葉樹が良いと思う。

【設計者】 「ナラ」「ブナ」は家具としてはよく使われるが、耐久性という事になると違う。あまり水の当たらないキャノピーや自由通路の中に取り入れる事は良いかと思うが、ハードな場所はもっと強い材の方が良いと思う。

【委員長】 シンボルである「いちい」も考えられる。

【委員】 駅前の道路を挟んだ向かい側と融合するような整備、看板規制を含めて、駅前広場の整備と一緒に整備できると良いと思う。

【委員】 先回り模型を見せていただいたが、市長も概ね皆さんと同じ意見であった。駅前のイメージが駅だけを見るのではなく、全体のイメージを見ていく必要があると思う。駅前には看板規制や景観上の規制をする前に出来ていた看板があり、そういった事も把握しながら対応をしていきたいと思っているが、少し時間は掛かると思う。県道と市道という絡みもあるが、市民や観光客の方が使われるには同じであり、行政全般として連携して進めたいと思っている。また、交流センターについても機能の共有化なども考えていきたいと思う。

【会長】 本日、いただいた意見を踏まえて基本設計（案）を作成していただき、再度まちづくり協議会で協議いただく事になるかと思う。